

2018年度 1号



市民協働情報誌



まちづくり
しよ!

平成30年度
市民協働事業（市民提案型）等のご紹介
～子育て分野～



市民協働事業(市民提案型) 平成30年度採択団体

特定非営利活動法人 ほっとすぺーす・つき

(家庭訪問型子育て支援 ホームスタート・さくら)

「ホームスタート」とは、イギリス発祥の子育て支援活動で、児童福祉のソーシャルワーカーであるマーガレット・ハリソン氏が“親による親支援”と“地域ボランティアによるピア(仲間)サポート”が、親の子育て意欲向上に効果があると提唱し、1973年からスタートしました。「ホームスタート・さくら」は、子育て中の方々の様々な悩みや要望などに耳を傾け(傾聴)、一緒に公園に行ったり、食事を作るなど共に行動(協働)し、子育てをサポートします。

活動の内容は、依頼を受けると、まず“オーガナイザー”と呼ばれる主軸のスタッフが自宅を訪問し、利用者の人柄や要望などを確認します。その上で、オーガナイザーがぴったりのホームビジターを選びます。役目を引き継いだホームビジターは1回につき2時間程度(全4回/無料)、要望にお応えして家事や育児などを一緒にを行い、育児意欲を高めてもらうよう、先輩ママとして気持ちに寄り添ったサポートをします。4回の訪問が終わると、再度オーガナイザーが状況確認に伺います。最初に会ったときは別人のようにすっきりした笑顔で迎えてくれることが多いです。



講義の後、質問用紙に真剣に書き込む受講者の皆さん

現在登録しているホームビジターは22名。30～70代と年齢層が幅広く、保育士や介護士、元園長などの経験豊かな方々です。昨年は40件の対応をしました。「誰にも相談はできない。ただ話を聞いてほしいだけ。」「見知らぬ土地に引っ越してきたばかりで友達もいない。」「双子なので1人で行動しづらい。」など子育て中のお母さんの悩みや不安感はそれぞれで、周囲の環境や状況なども異なり、一つとして同じ対応はありません。状況に適応した支援・サポートしていくためには行政や専門家のご協力をいただきながら、更に知識や情報を取得し、ホームビジターを増やしていく必要があります。

「ホームスタート・さくら」は子育ての喜びと幸せを共感し、時々不安やストレスに押しつぶれそうなとき、先輩ママがそっと優しくそばにいる活動です。

子育てに迷ったり、不安に思うことがあったら、ぜひお気軽にご連絡ください。

また先輩ママとして、行き届いた子育て支援実現のために、一緒に地域で子育てに悩む方々を応援しませんか!



佐倉市健康増進課 北見氏を講師に招いての「ホームビジター養成講座」

この役割を担うホームビジターを養成するために毎年、「ホームビジター養成講座」を開催し、今年で4期目を迎えました。講座は佐倉市健康増進課、子育て支援課、児童青少年課、学校カウンセラーの方々を講師に招き、オリエンテーションから始まり、「家庭訪問型の子育て支援ボランティアの役割と意義」「傾聴の意義と方法」などの専門的分野、「ホームビジターの実務」「佐倉市の子育て支援政策」「家族の中で活動する傾聴と協働の実際」などの具体的分野を学ぶ全7回のプログラムで行っています。

今年度ホームビジター養成講座には、7名の方が受講しています。子育て経験と保育士などの経験を生かし、この活動に欠かせない存在のホームビジターになるために意欲的に取り組み、講師への質疑応答の時間はとても充実したディスカッションが行われています。



NPO法人ほっとすぺーす・つきでは「ホームスタート・さくら」の活動の他に、こどもの学習支援やこども食堂、ひきこもり支援や各種イベントなども行っています。

【NPO法人ほっとすぺーす・つき】

営業日時：月～金曜日 15:00～20:00

所在地：佐倉市稲荷台1-17-1 2F ☎043-235-8008

メール：info@hottospace.com

ホームページ：http://hottospace.com

■家庭訪問型子育て支援「ホームスタート・さくら」

070-4039-7360 (直通)

特定非営利活動法人 NPO 子どものまち

「特定非営利活動法人 NPO子どものまち」は、2003年に任意団体として発足。毎年、地元商店街との連携のもと、子ども達の主体性を育てていく場として、中志津中央商店街で「ミニさくら」を開催しています。

「ミニさくら」は、ドイツの「ミニミュンヘン」の活動をモデルにしたもので、商店街の中に作られたまちの中で、子ども達は好きな仕事(遊び)をして、給料(通貨:モール)をもらい、買い物や食事などを楽しむことができる子ども達だけの遊びのまちです。



受付でルールを説明する「NPO子どものまち」金岡香菜子理事長

NPO子どものまちでは、毎年3月に「ミニさくら」を開催。本番に向けて子どもスタッフを9月に募集し、約半年をかけて、皆でまちの構想を練り上げていきます。

9月には、「ミニさくら」のイメージを体感してもらおうと、縮小版の「ぶちさくら」を開催。中志津中央商店街の中にあるNPO子どものまちの事務所で受付をしてスタート。この日、設けられた職種から好きな仕事を選び、「ぶちさくら」の会場でそれぞれ早速、店の準備に取り掛かりました。

のみもの屋さんの看板制作では、NPO子どものまち理事長の金岡さんが、文字の配列についての疑問を投げかけたり、お菓子のデコスイーツ屋さんでは、商品の見本を並べる提案や小さな声で話す子どもには、はっきり話すことを促すなど、子ども達に一つ一つ気づきをもたらしていきます。約2時間の「ぶちさくら」の後半には、商品の値引きや出張販売を行うなど、子ども達が店主として成長していく姿が見られ、給料をもらおうと充実の表情を浮かべていました。

理事長の金岡さんは現在27歳。小学5年生の時に「ミニさくら」に参加したのがきっかけで、当時の体験を「めちゃめちゃ面白かった」と鮮明に振り返ります。自身もアクセサリ屋さんやデザイナーなど、様々な仕事を体験。その後も参加者からスタッフへと立ち位置を変えながら関わりを持ち続け、大学4年生で理事長に就任。活動を通して経験してきた異世代交流が、社会に出てから大きく役



のみもの屋さんの看板制作

立っていると話します。

NPO子どものまちは、20~60代の13名の理事で構成されており、指導より見守ることを重視し、子ども達の可能性を引き出す役割に徹しています。最近では、考える習慣が乏しい子どもが多いことに危機感を持っており、失敗して覚えることの大切さや、「自分で考え・決めて・行動する」ことができる子どもを育てていくことが目標です。

15年にわたる「ミニさくら」の活動で、商店街や参加する子どもの保護者からの理解も深まり、2004年、事務所を商店街の一角に開設し、2016年にNPO法人を取得したことで、商店街との結びつきも一層強固になりました。昨年の「ミニさくら」には、約1,000名の子ども達が参加。商店街の一大イベントに成長した「ミニさくら」の日程に合わせ、商店もセールを行うなど、商店街と足並みを揃えながら、地域活性と子ども達の健全育成の役割を担います。

毎月第二日曜日には、商店街で行われる朝市にあわせて「朝市カフェ」を開催し、訪れる地域の方々に憩いの場を提供。また、子育て中のお母さん達が息抜きできるような場「えんがわカフェ」も毎週開催しており、商店街の一員として拠点を構えたことで、地域の人達との交流も増え、団体の存在を広く知って頂けるようになりました。

今年度の「ミニさくら」は、来年2019年3月22日(金)~24日(日)の開催。本番に向けて、市内各地で「ぶちさくら」も開催します。ぜひ、子ども達が主役の、子ども達による子ども達の遊びのまちを覗いてみてください。

【NPO法人 NPO子どものまち】

ミニさくら:2019年3月22日(金)~24日(日)

えんがわカフェ:毎週木曜日10:30~13:00

朝市カフェ:毎月第2日曜日8:30~10:00

所在地:佐倉市中志津4-1-7 ☎043-488-2839

<http://kodomonomachi.main.jp/>

<http://www.facebook.com/kodomonomachi>

江原台おもちゃ工房

平成16年より毎月第2土曜日の午後2時から5時まで江原台会館で、持ち込まれたおもちゃの修理を行っています。

代表の堀江悦郎さんは、機械工作が好きで、習志野市のボランティアサークル「おもちゃ病院」での活動を経て、61歳の時に江原台で当時の地域の方々とともに活動を始めました。壊れたおもちゃをゴミとして捨ててしまうことを少しでも減らし、修理することによって、物を大切に作る気持ちを醸成したい。おもちゃを通して「なぜ」「どうして」「どうすれば」という好奇心を持ってもらい、子どもたちが人と向き合って話をする(あいさつ、おもちゃの遊び方やどう壊れているかの説明、ありがたいの気持ち



給料をもらえました!!



昨年の「ミニさくら」より、タコさんウインナー作り



持ち込まれたおもちゃの状況を聞く代表の堀江悦郎さん

の表現など)の大切さを教えたいと活動しています。

子育て真っ盛りのお母さんが娘さんと一緒に4つの壊れてしまったおもちゃを持ち込みました。まずは受付で、一つ一つどう壊れているのか、正常であればどう作動するのかきちんとお話を聞きます。お母さんは「直るかどうか…」少し不安げな面持ちで、娘さんと一緒に説明をしていました。また、病院に入院中の子どもたちが前向きに治療できるよう遊びを使って支援している病棟保育士さんが来館。入院中の子どもたちが遊ぶおもちゃが壊れてしまい、何とか直して持ち帰りたいと話し、おもちゃドクターと一緒にになっておもちゃと向き合っていました。

おもちゃを修理するためには、まずは正常な動作を理解し、なぜ動作しないか原因の究明がもっとも重要と堀江さんは言います。おもちゃの修理を担当したドクターは、さらに詳しく壊れた内容と正常な動作を理解し、壊れた原因の究明をします。持ち込まれるおもちゃは様々で、1人で解決できる時があれば、2～3名で一緒に考えることもあります。この日持ち込まれたおもちゃは全部で9点、今年1月

から7月までは全部で84点、そのうち修理完了は77点、基板やICの不良などによる修理不能は7点ありました。

種々様々のおもちゃが売られていても、壊れたら直してくれるところはありません。おもちゃのドクターたちは、その9割の修理を完了して大変喜ばれています。またドクターの方々も、今時のおもちゃを見て、驚きや発見がたくさんあり、この活動を大変楽しんでいます。

その他の活動としては、夏休み中、草ぶえの丘で「夏休み工作教室」を行っています。今年は電気自動車作り、たたみ敷物作り、LED竹ランプ作り、万華鏡作り、牛乳パック帽子作りを行いました。さらに鉄道教室も行い大盛況で終了しました。



担当ドクターとして修理に取り組む様子

現在おもちゃドクターは15人。工房では、定年退職して今後の過ごし方を考えている方、現職時代に培った技術をおもちゃの修理に役立たせてみたい方、おもちゃに興味のある方、少年時代に物作りに熱中した方などおもちゃドクターを随時募集しています。子どもたちとのふれ合いを楽しんでみませんか。

【江原台おもちゃ工房】

「こわれたおもちゃ なおします」

- 開催日時 毎月第2土曜日14:00～17:00
- 開催場所 佐倉市江原台1-9-4 江原台会館
- 問合せ ☎043-486-7796 堀江悦郎

イベント情報

【シェイクスピア劇をおそぶ】

2018年11月17日(土) 13:30～16:30
中志津自治会館

シェイクスピア劇の数場面を題材にして、遊び感覚で体験できる演技ワークショップです。

- 参加費300円 ■小学5年生以上30人(先着順)
- 水筒、テキスト(事前配布)、筆記用具持参 ■運動可能な服装(スカート不可)

お申込み・お問合せ 子どものあしたプロジェクト
守田☎070-5650-0455 山本☎090-7638-0170

【かぶらぎ会フェスタ】

2018年11月23日(祝) 11:00～15:00
志津市民プラザ4階大会議室

アコーディオン合唱、カラオケ、ピアノ、昔話、大正琴、ギター、ウクレレ、ピンゴ等。当日参加できますので、ご自慢の演目をご披露できる方、ご観覧の方、ご参加をお待ちしています。

- 参加費400円(障害者無料/学生200円/小学生以下無料) ■昼食持参

お問合せ かぶらぎ会(佐倉市精神障害者家族会) ☎090-4755-3682

【きてみてほっとカフェ】

2018年11月21日(水) 10:00～15:00
社会福祉センター地下研修室

ボランティア活動をしている方・ボランティアに興味のある方が、気軽に情報交換や活動の相談をすることができる場所です。午前中は手話ダンス体験を行います。

- 参加費無料 時間内出入り自由

お問合せ 佐倉市社会福祉協議会
佐倉市ボランティアセンター☎043-484-6198

【ぶちさくらinレイクピアウスイ】

2018年12月15日(土) 10:00～15:00
レイクピアウスイ3F※参加者多数の場合、入場制限あり。

好きな仕事(遊び)を選んで、お給料(通貨)をもらい「ぶちさくら」の中で買い物や遊びに使うことができる、子ども達だけの遊びのまち。

- 参加費500円(材料費、保険代含む) ■小学1年生～18歳対象

お問合せ NPO子どものまち☎043-488-2839
<http://www.facebook.com/kodomonomachi>